

式 辞

かつて経験ないほど降雪が少なかったとはいえ、長きにわたった冬も終わりを告げ、ここ雄平の地にも、待ち望んだ春の到来が感じられる季節になりました。

本日ここに、第七十二回卒業証書授与式を挙げて下さることに安堵しております。

ただ今、卒業証書を授与されました、農業科学科三十四名、総合学科七十四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、晴れて卒業証書を手になされ、それぞれの志を持って新たな世界へ大きく羽ばたこうとしております。今、この旅立ちに当たり、本校で過ごした日々が胸を駆け巡っているのではないのでしょうか。

思えば三年前、皆さんは地域から愛されてきた、伝統ある増田高校に、大きな夢や希望を持って入学しました。

入学式の式辞で皆さんに贈られたのは、「人生とは 毎日が訓練である わたくし自身の 訓練の場である」で始まる、京都大仙院 尾関宗園の『今こそ出発点』という詩でした。「自分の未来は自分で変えられます」と激励されてスタートした高校生活でした。

学習や部活動、生徒会活動や農業クラブ活動などを通じて、地域連携の推進に積極的に挑戦してきた姿は、新聞やテレビで数多く取り上げられました。その姿によって、県内のみならず、東北、全国にまで、増田高校の名声を広めてくれました。

この三年間で学び、身に付けた力を土台とし、本校校訓『恩に生き 勤労に立て 清き感情 強き意志を持って』を胸に、新たな世界に力強く進んでいていただきたいと思います。

しかしながら、現代社会は、予測が難しく解決困難な多くの課題を抱えています。少子高齢化による労働力不足や過疎化、格差社会など、秋田県のみならず日本全国に及ぶ問題です。更に最近では、環境問題やウイルス感染症など、地球規模の事案も増える傾向にあります。また、人工知能の発達によって、人間の行う仕事は大きく変わることになるかもしれません。今後、世界はどうなっていくのか、不安は尽きません。

しかし、希望はあります。それは「皆さん」です。新しい時代を創り上げていくのは、常に若者です。『令和』という時代を中心となり、担っていくのは卒業生の皆さんを始めとする若者だと確信しております。

これまで学んだ様々な力を、より高度なものへと磨き上げ、目の前に立ち塞がる課題に、敢然と立ち向かってください。

Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.

「間違いをしたことのない人は、何も新しいことに挑戦したことがない。」アルベルト・アインシュタインの言葉です。

四十一年前の今日、本校を卒業した同窓生の一人としても、この言葉を皆さんに贈ります。失敗を恐れず、挑戦し続けてください。新しい世界が皆さんを待っています。

増田高校として、例年に近い形での卒業証書授与式を模索してきましたが、このような形になり、心苦しく思います。しかし、ここにおられない保護者の皆様や在校生はもちろん、教職員一同、皆さんの門出を心からお祝いし、応援しています。

結びに、百八名の卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、その未来に幸多からんことを祈念して式辞といたします。

令和二年三月一日

秋田県立増田高等学校長

遠藤 聡